・　このワークショップを企画してくれたメンバーは今回初めての合宿で、ワークショップを運営するというのも初めてだったと思うのですが、Xをよく見ているMさんらしい切り口のワークショップを開催してくれたと思いました。

Xは文字数に制限があるからこそ、言葉の尖りが出やすく、いわゆる「炎上」が起こりやすいSNSだと思います。
そんな研ぎ澄まされたSNSだからこそ、文字間にその人の無意識の価値観が滲み出てしまうものなのだろうと思います。

今回、**M**さんが選ばれた題材でも、メンバー間の感じ方が違う題材がたくさんあった。
過去に陽子さんが新聞の人生相談を題材として、その相手にどんな声掛けをするかというワークショップを開催したことがありましたが、同じように、**10**プロではなかなか起こりえない出来事からメンバー同士の価値観を知ることが出来る機会となりました。

Mさんがピックアップされた投稿の中で印象的だったのは「東京出身で進路選択、就職、結婚、育児とスルッと通過した」人に対するものでした。
私があまり遭遇したことがない故に、こんな人居るのかなぁと思ってしまったのですが、陽子さんや他のメンバーに補足してもらったことで、人物像がよりリアルになりました。
ワークショップでも話した通り、進路、就職、結婚までは順調でも、出産に至るまでに苦労している人には多く遭遇しています。

そこに多額の出費と時間をかけることが出来る立場というのはやはり恵まれているのだと思います。

また、九州出身の人が方言が出ないと褒められていることがけなされているように感じることについて、私も西日本の方言なので気持ちのわかる部分もありましたが、物心ついた頃にはお笑いで市民権を得ていたこともあり、肩身の狭さというのはほとんど感じたことがなかった。
一方で、私自身も感じる微細な言葉の差について、相手が感じているかもしれないコンプレックスについて予備知識として知っているかどうかというのは、他のメンバーの「自分は23区出身ではないから…」の言葉に通じるように、無意識に引き起こす要らぬトラブルの遭遇率を減らすという意味で大事だと思いました。

陽子さんが「擬態する」という言葉を使って説明されていたように、所属するグループにおいて、自分がどれ位外れていて、外れている要素は何かということもちゃんと理解しておくということは大事だと思いました。

（A.S 40代女性 大阪府）